

**【教育実践論文(ソニー子ども科学教育プログラム) 審査講評】**  
**2021年度 最優秀校**  
**刈谷市立朝日中学校**

「科学が好きな子ども像」を授業に取り組む生徒の活動の姿として具体化し、探究的な授業に取り組むため、単元構成を「探究心の萌芽—習得—活用」のサイクルとして共有し、授業の導入部で生徒の心を掴み、生徒に疑問と興味を起こさせるような事象を提示し、そこから活発な話し合いを通してみんなで考え、問題を解決し、理解していく実践が高く評価されました。

授業の中で生徒が「①さらなる疑問を抱く姿」「② 次の学習への期待を抱く姿」「③次の学習への見通しをもつ姿」「④ 自らの課題を見出す姿」という学びの深まりが捉えられており、成果と課題については「手立て」ごとに整理し、子どもの姿を通して考察されています。

また、探究的な科学活動として取り組んでいる夏休みの創意工夫された工作・研究活動、科学部の活動についても生徒の主体的な学びの深まりとして評価されました。

計画については、今年度の後半にもユニークな実践が計画されており、次年度も授業のみならず、「科学の甲子園」、「科学教室」など、様々な活動の詳細計画を立てられており、その成果に期待をしております。